

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	田中 美智子
----	-------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1992年千葉大学大学院医学研究科博士課程修了。1992年～鹿児島純心女子短期大学講師、鹿児島純心女子大学看護学部講師として勤務。1998年～宮崎県立看護大学講師、その後、助教授、准教授として勤務し、2009年4月本学に着任。

- ・ 高齢者の健康維持増進と慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸法  
 高齢者の健康維持増進に向けて、意識的に横隔膜を使用して行なう呼吸法が循環動態や自律神経系にどのような影響を与えるかについて検討している。また、同時に、呼吸リハビリの点からこのような呼吸法が軽度な慢性閉塞性肺疾患患者に対して、有効かどうかを明らかにすることも目指している。
- ・ 睡眠の簡易評価システム開発と高齢者における睡眠の質改善  
 日常的な睡眠状態の測定・評価を可能にするためのシステム開発と高齢者に見られる睡眠に関する問題を解決するために、睡眠の質改善のための援助について考えている。  
 これらの研究の他に身体を温めることの効果についても検討している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- ・ 田中美智子「血液」「体液」「呼吸」「尿生成と排泄」, 新・看護生理学テキスト. 深井喜代子他編集. 南江堂. 219-245, 265-289, 340-354, 2008年5月.
- ・ 田中美智子「呼吸器疾患」, やりなおしの解剖生理.smart nurse, 2010春季増刊. 佐伯由香・林正健二 編集. 16-35, 2010年3月.

#### <論文>

- ・ 田中美智子、長坂猛、矢野智子、小林敏生、榊原吉一：健康成人女性を対象とした腹式呼吸による自律神経反応と尿中ホルモンの変化. 日本看護研究学会雑誌 31(4), 59-65, 2008.
- ・ Tanaka M, (Takeshita) Kusuda M., Abe K., Nagasaka M.: Effects of iron deficiency anemia on growth rate of rats. 形態・機能, 7(2), 67-75, 2009.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 田中美智子、矢野智子、長坂猛.(2008).ホームページを活用した「人体の構造と機能」の実験実習. 第34回日本看護研究学会.盛岡.
- ・ 田中美智子、長坂猛、矢野智子.(2008).腹式呼吸が高齢者の循環・自律神経反応に及ぼす影響. 第7回日本看護技術学会学術集会. 弘前.
- ・ Tanaka M, Nagasaka M., Yano T., Kobayashi T., Sakakibara Y. (2009). The autonomic Nervous responses during the voluntary abdominal breathing in the elderly. 36<sup>th</sup> International congress of physiological sciences. Kyoto.
- ・ 田中美智子、長坂 猛. (2009). 意識的に横隔膜を使用する呼吸法が高齢者の自律神経系とホルモンに与える影響. 第8回日本看護技術学会, 旭川.
- ・ 田中美智子、長坂 猛.(2010).高齢者における意識的横隔膜呼吸時の自律神経反応と循環動態. 第36回日本看護研究学会.岡山.
- ・ 田中美智子、近藤美幸、江上千代美、長坂 猛.(2010). 卵胞期と黄体期における入眠時の自律神経反応. -1事例の結果から-. 第9回日本看護技術学会. 名古屋.

#### <報告>

- ・ 田中美智子、矢野智子、井野瑞樹、安部浩太郎：「人体の構造と機能」関連科目を4年次に開講する意義と学生の学び. 看護教育. 49(3), 医学書院, 231-236, 2008.
- ・ 田中美智子：呼吸器における解剖生理の理解と「検査データ」「アセスメント」の判断根拠. ナースセミナー, 29(12), 日総研. 4-14, 2009

- ・田中美智子、矢野智子、長坂猛、渋谷まさと：「人体の構造と機能」への「一步一步学ぶ医学生理学」自己学習システムの導入と学生の反応. 看護教育 50(11), 医学書院, 108-114, 2009.

〈その他〉

- ＊第18回看護人間工学部会総会・研究発表会の福岡開催の担当（2010年8月22日. 福岡県中小企業振興センターにて）

### ③過去の主要業績

〈論文〉

- ・Tanaka M., Takaiishi S., Honda Y., et al.:Dependence of biphasic HR response to sustained hypoxia on magnitude of ventilation in man. Jpn.JPhysiol. 42, 865-875, 1992.
- ・Tanaka M., Masuda A., Honda Y., et al.:Estimation of CO<sub>2</sub> chemosensitivity from the carotid body in humans. Oxygen Sensing: Molecule to Man, edited by S. Lahiri et al. Kluwer Academic / Plenum Publishers. 663-670, 2000.
- ・Tanaka M., Nagasaka M., Honda Y., et al.:Improved O<sub>2</sub> transport and utilization capacity following intermittent hypobaric hypoxia in rats. Adv. Exp. Med. Biol. 499, 375-379, 2001.

### 3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究 C)「呼吸困難感軽減をねらいとした高齢者慢性閉塞性肺疾患患者における呼吸訓練の早期介入」、1040,000（平成21年度）、平成20年度～22年度

### 4. 所属学会

1986.4. 日本看護研究学会（2001.4.～2004.3.:査読委員, 2007.4～：評議員・査読委員 現在に至る）.日本看護研究学会九州地方会（2006～：地方会役員、2009～：地方会会計）1989.1. 日本生理学会（評議員 現在に至る）、1990.4. 日本臨床生理学会、1991.1. 日本胸部疾患学会（現：日本呼吸器学会）、1994.4. 日本病態生理学会、看護人間工学部会（2007～：査読委員・役員,2010 部会主催）、1994.4. 日本登山医学会（2009～：評議員）、日本体力医学会、2002.10. コメディカル形態機能学研究会、2005.4. 日本看護技術学会（2008.～ 査読委員）、2009.12. 日本看護科学学会（2009.～和文誌編集委員）

### 5. 担当授業科目

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年・前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年・後期、実験看護学演習(実験看護学演習Ⅰ)・1単位・2年(編入生)・前期、実験看護学Ⅱ・1単位・編入生・後期、教養ゼミ・1単位・1年・前期、専門看護ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

実験看護学特論・2単位・1年・前期、実験看護学演習・2単位・1年・後期、Advanced 生理学・病態生理学・2単位・1年・前期、基盤看護学特別研究・8単位・2年・通年

### 6. 社会貢献活動

- ・呼吸器ケア 編集協力委員
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員